

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	臨床検体における RNA-seq の数理学モデルを用いた品質評価方法の開発と検討
	研究対象者	3 つの先行研究である骨軟部腫瘍外科、肝胆膵外科にて手術を実施した患者のうち、肉腫における「鎌状血管形成に関する研究」(2022 疫-25)、「全ゲノム／全トランスクリプトーム解析などゲノムワイドな解析に基づく高悪性度胎児型肺腺癌の病態解明と、遺伝子解析情報に基づく希少がん治療の precision medicine 実装に向けたシミュレーション」(28 研 60)、「固形腫瘍を対象としたひと癌組織由来移植片(PDX)、ヒト癌組織由来オルガノイド(PDO)を用いた探索的治療表的分子の同定」(2019 疫-38) で RNA-seq 情報が既に取得済みの患者
	研究目的	病理組織の保存検体(凍結またはホルマリン固定パラフィン包埋組織(FFPE))における核酸品質の改良は重要な課題です。臨床検体での遺伝子発現の状態を反映するトランスクリプトームデータの評価を改善するため、RNA-seq データ(遺伝子の発現を次世代シーケンサーという機器を使って解析したもの)の品質を評価するシンプルなフレームワークとして、数理モデル(数式)を用いた評価方法の開発を目的としています。
	研究方法	既に参加して頂いた研究で得られた RNAseq データを利用します。また、追加検証用として、一部の凍結保存した手術検体や病理標本から核酸抽出を行い、RNAseq 解析を新たに行います。RNAseq 解析は、誰の検体が判らないように匿名化して外部の業者に委託します。得られた配列データを元に、遺伝子の発現状態を数値化します。このデータを、この研究で開発を目指す数理モデルで解析し、既存の評価方法と比較検討します。病気そのものに関する臨床情報、病歴などは本研究では扱いません。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号(識別コード)で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表は既にこれまでに参加して頂いた研究で作成していますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管されており、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 9 月 1 4 日 ～ 西 暦 2 0 2 9 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	☐ 総長が研究実施を許可した日 ☒ 西暦 2026 年 10 月 30 日頃(研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		☒ ☐ 血漿、☐ 血清、☐ 全血、☐ 末梢血から抽出した DNA、 ☒ 病理検体(具体的に記載: <u>FFPE パラフィンブロック検体</u>)、 ☐ 尿、☐ 糞便、☐ 唾液、☐ 胸水、☐ 腹水、☐ 脳脊髄液、 ☐ 毛髪、☒ その他(具体的に記載: <u>生体試料センターが保管している凍結組織</u>) ☒ ☐ 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、☐ 年齢、☐ 生年月日、☐ 性別、☐ 既往歴、☐ 併存疾患、☐ 外来日・入院日・退院日、☐ 臨床検査値、☐ 放射線診断 報: や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、☐ 臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、☐ ゲノムデータ、☐ 看護記録、☒ その他(具体的に記載:既に取得されている RNAseq の情報)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	神奈川県立がんセンター 臨床研究所・笠島 理加
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター・臨床研究所・笠島 理加・045－5 2 0－2 2 2 2 利用停止のお申し出は 2026 年 10 月 30 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります